



2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年10月24日
東

上場会社名 鉦研工業株式会社 上場取引所
 コード番号 6297 URL <http://www.koken-boring.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 木山 隆二郎
 問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員 財務本部長 (氏名) 三輪 美之 (TEL) 03 (6907) 7888
 四半期報告書提出予定日 2019年11月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	3,223	0.5	49	402.7	45	388.4	48	395.1
2019年3月期第2四半期	3,207	△1.4	9	—	9	—	9	—

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 52百万円(227.2%) 2019年3月期第2四半期 16百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	5.38	—
2019年3月期第2四半期	1.09	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	7,378	3,581	48.3
2019年3月期	8,011	3,583	44.5

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 3,562百万円 2019年3月期 3,564百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	6.00	6.00
2020年3月期	—	0.00			
2020年3月期(予想)			—	6.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,000	12.1	290	6.3	280	4.7	200	11.3	22.31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期2Q	8,970,111株	2019年3月期	8,970,111株
2020年3月期2Q	3,551株	2019年3月期	3,551株
2020年3月期2Q	8,966,560株	2019年3月期2Q	8,966,595株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等へのご注意)

本資料に記載されている業績予想見直し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)5ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料は、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	13
(表示方法の変更)	13
(セグメント情報等)	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、機械投資に弱さがみられるものの、企業収益は底堅く推移し、雇用・所得環境の改善や個人消費にも持ち直しの動きがみられるなど緩やかな回復基調で推移しました。一方、世界経済においては、米中通商問題や中国経済の減速懸念、英国のEU離脱問題や長期化が懸念される日韓問題などの影響により、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く環境につきましては、国内市場において今後も都市の再開発、全国規模の防災・減災対策、インフラ老朽化対策、リニア中央新幹線建設など、社会資本整備が不可欠で、建設投資は底堅く推移していくことが見込まれています。

このような状況のもと、当社グループでは「2018中期経営計画」（2018年度～2020年度）の2年目である当期もこの計画に基づき、『①粗利率のアップ、②固定費低減、③売上拡大』を目指して引き続き推進してまいります。

また、本年6月に新執行体制へ移行したことに伴い、社是を「ONE & ONLYの技術構築のために前進」へ変更しました。これは、当社にしかない「ONE & ONLY」の得意技術をボーリングスペシャリストとしての自負とともに国内・海外の市場に展開していくというもので、これまで以上に他社が追従出来ない機械と施工技術の開発を進めてまいります。

当第2四半期連結累計期間の受注は、ボーリング機器関連において国内での機械本体を中心にして受注が伸びたため、前年同四半期を上回ることができました。また、売上については、ボーリング機器関連においては、本体等の出荷が第3四半期以降へずれ込んだ影響もあり、前年同四半期を下回りましたが、工事施工関連においてはトンネル先進調査ボーリング工事が引き続き好調に推移したことに加え、当社得意の大口径立坑掘削工事（BM工事）や温泉工事が順調に完工したことにより、前年同期比を上回りました。

以上の結果、連結受注高は、前年同四半期4.8%増の4,259百万円、連結売上高は、同0.5%増の3,223百万円となりました。

利益面におきましては、売上高の増加と原価率の低減により粗利益段階では前年同四半期を大きく上回りましたが、本年4月に行った株式会社エンバイオ・ホールディングスとの資本・業務提携に係るコンサルティング・弁護士費用などで販管費が増加したことにより、営業利益は49百万円（前年同四半期は9百万円の営業利益）、経常利益は45百万円（同9百万円の経常利益）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、特別利益として固定資産売却益15百万円を計上した結果、法人税等の負担をカバーし、48百万円（前年同四半期は9百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

当第2四半期連結累計期間の業績は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	当第2四半期 連結累計期間(A) 自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	前第2四半期 連結累計期間(B) 自 2018年4月1日 至 2018年9月30日	前年同期比較	
			増減額 (A)-(B)	増減率 (A)/(B)-1
受注高	4,259	4,063	195	4.8%
売上高	3,223	3,207	16	0.5%
営業利益	49	9	39	402.7%
経常利益	45	9	35	388.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	48	9	38	395.1%

(百万円未満は切り捨てて表示しております。)

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① ボーリング機器関連

海外受注は遅れているものの、国内でのボーリングマシン本体などの受注が増えたことにより、受注高は前年同四半期と比べると増加いたしました。売上につきましては国内海外ともに当社主力のロータリー・パーカッションドリル（R P D機シリーズ）の出荷が第3四半期以降にずれ込んだものが発生した影響により前年同四半期を下回りました。

利益面では引き続き特機の高原価をおこさない体制により逐次、個別原価の管理を行っておりますが、販管費が増加したことにより当セグメントの固定費負担額が嵩んだため、92百万円のセグメント損失（前年同四半期は25百万円のセグメント損失）となりました。

（単位：百万円）

	当第2四半期 連結累計期間(A) 自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	前第2四半期 連結累計期間(B) 自 2018年4月1日 至 2018年9月30日	前年同期比較	
			増減額 (A)-(B)	増減率 (A)/(B)-1
受注高	2,359	2,052	307	15.0%
売上高	1,734	1,876	△141	△7.6%
セグメント損失 (△)	△92	△25	△67	—

（百万円未満は切り捨てて表示しております。）

② 工事施工関連

多忙となっている北海道・北陸における新幹線・高速道路延伸工事でのトンネル先進調査ボーリング工事に加えて、当社得意工種である大口径立坑掘削工事（BM工事）と長尺コントロールボーリング工事の受注が獲得できましたが、温泉工事、アンカー工事や海外工事が低調であったため、受注高は前年同四半期と比べると減少いたしました。売上高につきましては、トンネル先進調査ボーリング工事、アンカー工事、温泉工事に加え小口でありますBM工事も完工したことにより、前年同四半期を上回りました。

利益につきましては、完工高の増加とBM工事により全体の利益率を引き上げたことにより、141百万円（前年同四半期は35百万円のセグメント利益）のセグメント利益となりました。

（単位：百万円）

	当第2四半期 連結累計期間(A) 自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	前第2四半期 連結累計期間(B) 自 2018年4月1日 至 2018年9月30日	前年同期比較	
			増減額 (A)-(B)	増減率 (A)/(B)-1
受注高	1,899	2,011	△111	△5.6%
売上高	1,488	1,330	157	11.9%
セグメント利益	141	35	105	294.4%

（百万円未満は切り捨てて表示しております。）

(2) 財政状態に関する説明

①資産の部

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末と比較して632百万円減少し、7,378百万円となりました。

流動資産は、たな卸資産（商品及び製品、仕掛品、未成工事支出金、原材料及び貯蔵品）が341百万円増加しましたが、売上債権（受取手形及び売掛金、電子記録債権、完成工事未収入金）が987百万円、現金及び預金が119百万円減少したことなどから、前連結会計年度末と比較して733百万円減少し、5,281百万円となりました。

有形・無形固定資産は、建物、工事機械などで153百万円の設備投資を行なう一方、47百万円の減価償却の実施により1,734百万円となりました。また、投資その他の資産は、繰延税金資産が5百万円減少し284百万円となったことにより、固定資産合計では前連結会計年度末と比較して100百万円増加し、2,096百万円となりました。

②負債の部

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末と比較して631百万円減少し、3,796百万円となりました。

流動負債は、買入債務（支払手形及び買掛金、電子記録債務、工事未払金）が242百万円、短期借入金（1年内返済予定の長期借入金、リース債務を含む）99百万円、未成工事受入金が73百万円、未払法人税等65百万円が減少したことなどから、前連結会計年度末と比較して541百万円減少し、2,841百万円となりました。

固定負債は、役員退職慰労引当金が56百万円、長期借入金（リース債務含む）が20百万円、退職給付に係る負債が11百万円減少したことなどから、前連結会計年度末と比較して90百万円減少し、954百万円となりました。

③純資産の部

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、親会社株主に帰属する四半期純利益48百万円を計上しましたが、配当金の支払い53百万円などにより前連結会計年度末と比較して1百万円減少し、3,581百万円となりました。なお、自己資本比率は、総資産の減少もあり前連結会計年度末と比較して3.8ポイント増加し、48.3%となりました。

(キャッシュ・フローについて)

当第2四半期連結累計期間末の現金及び現金同等物は、以下の記載のキャッシュ・フローにより、前連結会計年度末に比べ119百万円減少し1,041百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、104百万円の収入（前年同四半期は51百万円の収入）となりました。収入の主な内訳は、売上債権の減少970百万円、税金等調整前四半期純利益60百万円、減価償却費の計上47百万円であり、支出の主な内訳は、たな卸資産の増加403百万円、仕入債務の減少252百万円、未成工事受入金の減少73百万円、法人税等の支払額67百万円、役員退職慰労引当金の減少56百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、43百万円の支出（前年同四半期は25百万円の支出）となりました。支出の主な内訳は、有形及び無形固定資産の取得による支出60百万円であり、収入は有形及び無形固定資産の売却による収入18百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、180百万円の支出（前年同四半期は160百万円の支出）となりました。長期借入金は、50百万円の調達を行う一方、約定返済により70百万円を返済いたしました。短期借入金は、50百万円の調達に対し、150百万円を返済し、ファイナンス・リース債務は6百万円を返済いたしました。また、配当金は53百万円の支払いを行いました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の業績予想につきましては、2019年4月24日に公表いたしました業績予想から修正しております。

(連結業績予想)

売上高	8,000百万円 (前期比 12.1%)
営業利益	290百万円 (前期比 6.3%)
経常利益	280百万円 (前期比 4.7%)
親会社株主に帰属する当期純利益	200百万円 (前期比 11.3%)

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,186,534	1,067,302
受取手形及び売掛金	1,549,824	955,691
完成工事未収入金	698,067	475,112
電子記録債権	347,897	177,062
商品及び製品	1,219,986	1,351,849
原材料及び貯蔵品	394,148	433,328
仕掛品	405,292	515,200
未成工事支出金	123,983	184,285
その他	89,348	121,955
貸倒引当金	—	△200
流動資産合計	6,015,083	5,281,588
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,079,566	1,079,566
その他(純額)	524,778	620,308
有形固定資産合計	1,604,344	1,699,874
無形固定資産		
投資その他の資産	24,694	34,309
繰延税金資産	289,976	284,312
その他	82,802	81,312
貸倒引当金	△5,446	△2,935
投資その他の資産合計	367,331	362,689
固定資産合計	1,996,370	2,096,873
資産合計	8,011,453	7,378,462

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	965,778	670,035
電子記録債務	675,391	739,200
工事未払金	148,438	137,842
短期借入金	770,000	670,000
1年内返済予定の長期借入金	132,300	136,956
未成工事受入金	112,758	39,525
未払法人税等	92,465	26,859
製品保証引当金	17,030	665
賞与引当金	149,922	151,074
その他	319,315	269,758
流動負債合計	3,383,401	2,841,917
固定負債		
長期借入金	200,110	175,192
役員退職慰労引当金	69,476	12,601
退職給付に係る負債	597,659	586,191
環境対策引当金	3,744	1,904
資産除去債務	11,975	12,049
その他	162,085	166,876
固定負債合計	1,045,050	954,815
負債合計	4,428,451	3,796,733
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,165,415	1,165,415
資本剰余金	5	5
利益剰余金	2,277,030	2,271,505
自己株式	△1,597	△1,597
株主資本合計	3,440,854	3,435,329
その他の包括利益累計額		
土地再評価差額金	187,108	187,108
退職給付に係る調整累計額	△63,444	△59,581
その他の包括利益累計額合計	123,664	127,526
非支配株主持分	18,484	18,873
純資産合計	3,583,002	3,581,729
負債純資産合計	8,011,453	7,378,462

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	3,207,113	3,223,219
売上原価	2,434,007	2,353,501
売上総利益	773,106	869,718
販売費及び一般管理費	763,322	820,536
営業利益	9,784	49,181
営業外収益		
受取利息	349	12
為替差益	94	—
未払配当金除斥益	493	548
公園管理料	1,308	1,308
貸倒引当金戻入額	1,178	112
その他	4,604	2,346
営業外収益合計	8,029	4,327
営業外費用		
支払利息	8,234	7,126
為替差損	—	44
その他	340	1,219
営業外費用合計	8,575	8,390
経常利益	9,238	45,118
特別利益		
固定資産売却益	599	15,778
特別利益合計	599	15,778
特別損失		
固定資産除却損	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前四半期純利益	9,838	60,897
法人税、住民税及び事業税	14,195	8,274
法人税等調整額	△16,004	3,958
法人税等合計	△1,808	12,233
四半期純利益	11,646	48,663
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,896	389
親会社株主に帰属する四半期純利益	9,750	48,274

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	11,646	48,663
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	4,406	3,862
その他の包括利益合計	4,406	3,862
四半期包括利益	16,053	52,526
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	14,156	52,136
非支配株主に係る四半期包括利益	1,896	389

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	9,838	60,897
減価償却費	40,058	47,728
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△1,178	△2,310
受取利息及び受取配当金	△350	△40
支払利息	8,234	7,126
為替差損益 (△は益)	△85	19
売上債権の増減額 (△は増加)	9,806	970,484
未成工事受入金の増減額 (△は減少)	56,848	△73,232
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△130,640	△403,973
仕入債務の増減額 (△は減少)	89,498	△252,362
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△3,726	1,152
製品保証引当金の増減額 (△は減少)	△517	△16,365
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△19,978	△56,874
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	28,655	△5,901
工事損失引当金の増減額 (△は減少)	△1,300	—
環境対策引当金の増減額 (△は減少)	—	△1,840
有形及び無形固定資産売却損益 (△は益)	△599	△15,778
有形及び無形固定資産除却損	0	0
前受金の増減額 (△は減少)	△1,112	3,058
前渡金の増減額 (△は増加)	1,264	△4,662
未払費用の増減額 (△は減少)	43,168	△32,903
その他	△20,709	△46,143
小計	107,174	178,078
利息及び配当金の受取額	353	39
利息の支払額	△8,215	△7,181
法人税等の支払額	△47,763	△67,206
法人税等の還付額	—	660
営業活動によるキャッシュ・フロー	51,548	104,390
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△28,222	△60,467
有形及び無形固定資産の売却による収入	100	18,500
定期預金の純増減額 (△は増加)	△600	△600
その他	3,187	△1,337
投資活動によるキャッシュ・フロー	△25,535	△43,904

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	50,000	50,000
短期借入金の返済による支出	△87,600	△150,000
長期借入れによる収入	50,000	50,000
長期借入金の返済による支出	△119,967	△70,262
配当金の支払額	△44,972	△53,982
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△8,384	△6,054
財務活動によるキャッシュ・フロー	△160,924	△180,299
現金及び現金同等物に係る換算差額	85	△19
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△134,825	△119,832
現金及び現金同等物の期首残高	1,226,288	1,161,033
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,091,463	1,041,200

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「公園管理料」は、金額的重要性が増したため、当第2四半期連結累計期間より独立掲記することとしております。この表示方法を反映させるため、前第2四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表の組換えを行っております。

この結果、前第2四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において、「その他」に表示していた5,913千円は、「公園管理料」1,308千円、「その他」4,604千円として組替えております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額(注) 2
	ボーリング 機器関連	工事施工関連			
売上高					
外部顧客への売上高	1,876,220	1,330,892	3,207,113	—	3,207,113
セグメント間の内部売上高 又は振替高	6,231	—	6,231	△6,231	—
計	1,882,451	1,330,892	3,213,344	△6,231	3,207,113
セグメント利益又は損失 (△)	△25,033	35,791	10,757	△973	9,784

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△973千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額(注) 2
	ボーリング 機器関連	工事施工関連			
売上高					
外部顧客への売上高	1,734,450	1,488,769	3,223,219	—	3,223,219
セグメント間の内部売上高 又は振替高	4,029	—	4,029	△4,029	—
計	1,738,479	1,488,769	3,227,249	△4,029	3,223,219
セグメント利益又は損失 (△)	△92,172	141,174	49,002	178	49,181

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額178千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。